

錦木マンホール



盛岡市水道事業90周年記念
錦木関をモデルとしたデザイン消火栓鉄蓋



1. 盛岡市水道事業のご紹介

ヨクヨク飲める水道水を次世代へ

- 盛岡市は、“安全でおいしい”水道水を蛇口まで送り続けて90年
- これからも強靭な水道システムを築き、信頼される水道事業を目指します。
- **錦木関は、米内浄水場の水道水を飲んで育ちました。**



2. 企画趣旨

本企画は、地域の防災力向上および活性化を目的とし、消火栓鉄蓋のデザインにご当地に縁のある錦木関をキャラクターとして起用するものです。

郷土愛や地域とのつながりを表現する象徴として、誠実で力強く親しみやすいキャラクターを通して、防災への关心を高めるとともに地域の元気を回復し、併せて来訪者に向けた地域の魅力発信も目指します。

3. 依頼の背景

- ① 錦木関は岩手県盛岡市上米内地域出身（米内小学校、米内中学校卒業）で、地元の誇りとして多くの市民に親しまれています。
- ② 盛岡市では、令和6年8月27日に観測史上最大の豪雨が発生し、市内各地に甚大な被害が発生しました。特に、錦木関出身の上米内地域では、橋や道路が崩壊し、集落が孤立するなど、住民の落胆はとても大きなものでした。
- ③ 盛岡市は、水道事業90年を迎える、水道誕生の地である米内地域への感謝とともに、地元の元気回復に資する取り組みとして、錦木関の消火栓鉄蓋デザインを企画いたしました。
- ④ 消火栓蓋は日常に密着した防災設備である一方、デザインを施すことで視認性を高め、防災意識を啓発することができます。

4. 激甚化・頻発化する気象災害

- 令和6年8月27日盛岡市観測史上最大の豪雨が発生しました。
- 上米内地域は、米内川が増水し、橋の流出や道路崩壊で集落が孤立。いまだに完全な復旧にいたっておりません。

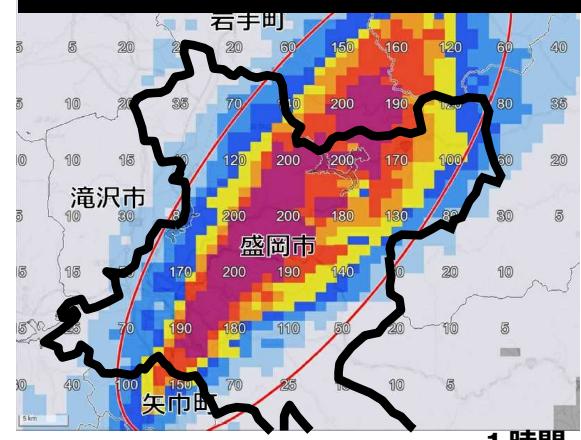
生活道路の崩壊



1.4万世帯避難指示



盛岡市に線状降水帯



観測史上最大68ミリ
1時間
降水量

▼米内川の氾濫▶

取水口が被災



百目木橋（米内川）



生活道路の崩壊



橋の流出



市街地の冠水

畠橋（米内川）

上米内地区
7世帯18人が孤立



路肩の崩落

米内浄水場（米内川）

デザインコンセプト

全国初！現役大相撲力士をモデルとしたデザインマンホール蓋

1. 地域の誇りを象徴する力士の姿

盛岡市出身の大相撲力士・錦木闘を中央に大きく配し、市民にとって誇りとなる存在感を表現。力士としてのたくましさと親しみやすさを併せ持つ笑顔で、地域を見守るような温かさを醸し出しています。

2. 両手を広げた「張り手」の構え

正面に大きく構えた両手は、相撲の技である「張り手」の構えを模したものです。これは力強さと闘志を象徴するポーズであると同時に、防災意識の啓発として「危険を食い止める」「市民を守る」意思も重ねています。力士の所作と防災の象徴を融合させたユニークな表現です。

3. 「米内浄水場の桜」で彩る

背景に咲き誇る桜は、市内有数の桜の名所である米内浄水場の桜をモチーフとしています。水道施設と桜の名所という二つの意味を重ねることで、90年の歴史を持つ盛岡市水道の歩みと、そこに流れる豊かで美しい暮らしを象徴しています。

4. 「盛岡さんさ踊り」の太鼓模様を背景に

縁を彩る赤と黒の配色は、盛岡を代表する伝統行事「盛岡さんさ踊り」で使用される太鼓胴の模様をモチーフとしています。リズムと熱気に満ちた祭りの力強さをデザインに取り入れることで、盛岡らしさと市民の躍動感を視覚化しました。

5. 二つのメッセージを込めた文字

マンホールの縁にあしらわれた二つの文字列には、次のような意味が込められています。「もりおかしすいどう90年」⇒盛岡市水道事業90周年記念事業であることを明確に示し、公共インフラの歩みを伝えます。

「地元を元氣にする努力の人」⇒錦木関がふるさとを想い、努力を重ねてきた姿勢をたたえるメッセージ。地域を明るくする存在として、未来の子どもたちへの励ましにもつながります。

6. 視認性と機能性を両立した「消火栓」表示

黄色時に黒字で「消火栓」の表示を明瞭に示し、実際の消防活動での視認性を確保。鉄蓋本来の機能性を保ちつつ、記念デザインとしての存在感を兼ね備えた構成としています。

